

# 再起へ

ーリベンジをかけた夏ー

## 夏合宿in志賀高原

### 2009.8.17-9.4

ポイント練習をこなす選手（撮影・千石 陽香）



### 志賀高原レポート

毎年恒例となっている長野県での夏合宿が、今年も8月17日～9月3日にかけて行われた。この合宿は野尻湖から始まり、その後志賀高原、また野尻湖へと場所を移す3次構造となっている。志賀高原での取材日は、6時前から朝練習が始まった。早朝の寒さのなか、同時にランニングを始める。トップでコースを回り戻ってくるのは宇賀地。駅伝主将として、練習でもチームを引っ張る存在だ。

3チームに分かれて400mを16本走り込むポイント練習では、日差しが強くなり、気温が高くなるなか、集団を乱さないようしながら走りこむ。練習終盤、最後の夏合宿となる4年生が先輩に声を掛ける姿も見られ、駅伝シーズンに懸ける強い熱意が伝わってきた。



**宇賀地 強**  
Tsuyoshi Ugachi

ジョグを中心に行う自主練習では、チームメイトとともに走る選手も多く、チームの仲の良さもうかがえる。

高林祐介主将は「キャプテン、4年生としてチームを支えていきたい。（駅伝シーズンに向けて）気を抜かず頑張りたい」と意気込みを語った。

夏合宿を弾みに、3大駅伝では成果が発揮され、優勝争いに絡む走り方が期待できそうだ。

（上田 将大）

最後の駅伝シーズンに向け、宇賀地強（法4）は成長し続けている。

7月に行われた学生のオリンピック・ユニバーシアードでは1万mに出場し、東洋大・柏原に勝る日本人1位を獲得。「実力を最大限出せた」と世界での手応えを実感した。その一方で、「メダルを逃した悔しさもある」と語る言葉からは、エースの意地がうかがえる。

夏合宿直後に行われた日本インカレでは5千mに出場。疲労が残るなか好走し、4位でゴール。「狙ってないなかでしっかりと走れた」と語り、厳しい合宿の結果を挙げた。

夏を経て、さらなる飛躍を遂げた宇賀地。不動のエースは、最後の駅伝

## ユニバ、日本インカレでも大活躍！絶対的エース

「コンディションは普通。（最後の夏合宿での目標は）最後の合宿というよりも、この先の駅伝シーズンで結果を残すためなので、とくに合宿だからという目標はないですね。（チーム状況は）かなり厳しい。練習ができていないメンバーが少ないし、できているメンバーも（練習の）質が上がったらついていけないと思う。まだまだ層は薄いです。（駅伝シーズンに向けて）リベンジします！」

### ◆夏合宿コメント

「コンディションは普通。（最後の夏合宿での目標は）最後の合宿というよりも、この先の駅伝シーズンで結果を残すためなので、とくに合宿だからという目標はないですね。（チーム状況は）かなり厳しい。練習ができていないメンバーが少ないし、できているメンバーも（練習の）質が上がったらついていけないと思う。まだまだ層は薄いです。（駅伝シーズンに向けて）リベンジします！」

挑む。（中込 由香）



日本インカレで好走した宇賀地